

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 79人

② 算数 79人

5 留意事項

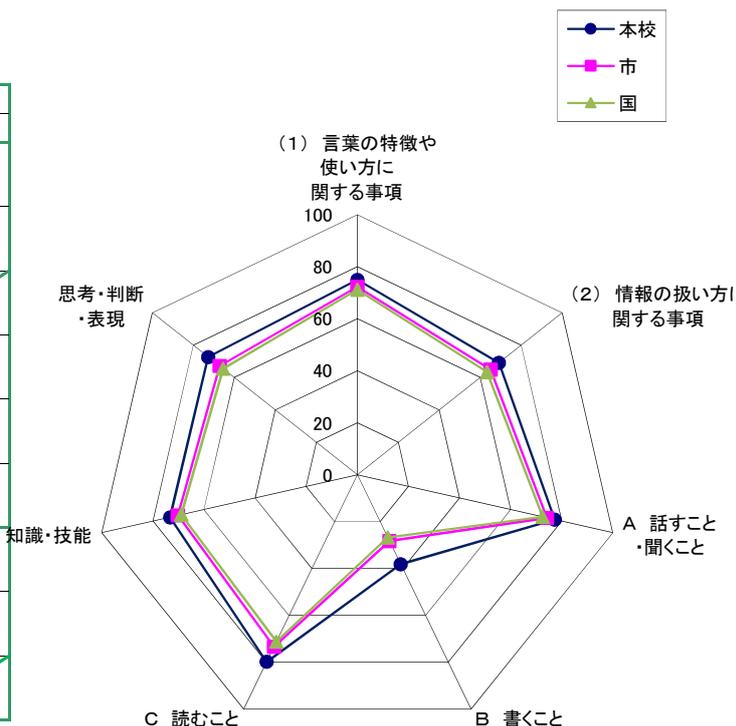
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	75.0	72.3	71.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	69.1	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	77.2	74.2	72.6
	B 書くこと	38.2	28.2	26.7
	C 読むこと	79.8	73.3	71.2
観点	知識・技能	73.3	70.2	68.9
	思考・判断・表現	72.7	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は75.0%で、全国よりも3.8ポイント高い。 ○「いがい」を書き直す問題の正答率は、65.8%であり、全国よりも13.0ポイント高い。 ●「きかん」を書き直す問題の正答率は、69.7%であり、全国よりも2.9ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ音で異なる意味をもつ漢字をAIドリルや漢字テストを活用して繰り返し学習させていく。
(2) 情報の扱いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は69.1%で、全国よりも5.7ポイント高い。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う問題の正答率は、69.7%であり、全国よりも7.7ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を取捨選択したり、結び付けたりする学習活動を継続していく。
A 話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は77.2%で、全国よりも4.6ポイント高い。 ○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題の正答率は、78.9%で、全国よりも8.7ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめることができるように、国語だけでなく、学習活動のあらゆる場面で資料を用いて自分の考えを発表する指導を継続していく。
B 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は38.2%で、全国よりも11.5ポイント高い。 ○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題の正答率は、38.2%で、全国よりも11.5ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図を正しく読み取り、条件に沿って自分の意見とその理由をまとめ、書く指導を継続していく。
C 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は79.8%で、全国よりも8.6ポイント高い。 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題の正答率は、69.7%で、全国よりも13.5ポイント高い。 ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題の正答率は、77.6%で、全国よりも10.2ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の読み取りでは、人物の気持ちを捉えることができるように、叙述を基に登場人物の気持ちを考えるように指導を継続していく。 ・登場人物の気持ちを想像して物語に親しめるように読書の時間を確保したり、家庭での読書を啓発したりする。

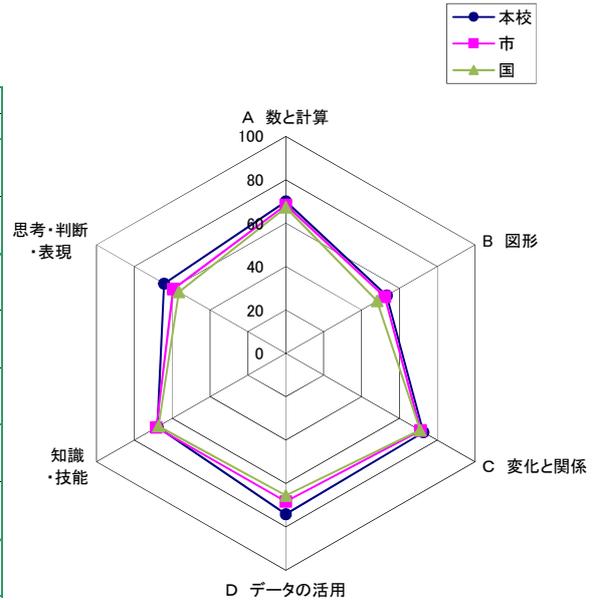


宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	70.0	68.4	67.3
	B 図形	53.3	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	72.7	71.2	70.9
	D データの活用	74.1	68.3	65.5
観点	知識・技能	67.8	68.4	67.2
	思考・判断・表現	64.3	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は70.0%で、全国よりも3.1ポイント高い。 ○()を用いた式や加法と乗法の混合した式を場面と関連づけて読み取る問題の正答率は、77.6%で、全国よりも7.3ポイント高い。 ○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る問題の正答率は、85.5%で、全国よりも9.8ポイント高い。 ●わり算の筆算について、図を基に各段階の商の意味を考える問題の正答率は、43.4%で、全国よりも4.2ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算の筆算では、計算の手順を押さえる際に、わり算の式と意味を捉えられるように、話し合ったり、説明したりする活動を取り入れ、理解を深める。
B 図形	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は53.3%で、全国よりも3.7ポイント高い。 ○正方形の意味や性質についての問題の正答率は、90.8%で、全国よりも3.6ポイント高い。 ○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を記述する問題の正答率は、46.1%で、全国よりも25.3ポイント高い。 ●正三角形の意味や性質についての問題の正答率は、14.5%で、全国よりも10.4ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・折り紙でどのような折り方をすると正三角形など作りたい図形になるか予想し、実際に作る学習やプログラミング学習を取り入れ、図形の意味や性質、構成についての理解を深める。
C 変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は72.7%で、全国よりも3.3ポイント高い。 ○伴って変わる2つの数量が比例の関係であることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題での正答率は65.8%で、全国よりも10.3ポイント高い。 ●百分率で表された割合についての問題の正答率は、42.1%で、全国よりも3.9ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場면을提示し、百分率が表す意味について再度確認して、割合の理解を深める。 ・学校生活の中で、割合が身近に感じられるよう、他教科とも関連させて身の回りで用いられている割合について触れる機会を設ける。
D データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、74.1%で、全国よりも7.2ポイント高い。 ○示された棒グラフと複数の棒グラフを組み合わせたグラフの違いを記述する問題の正答率は、67.1%で、全国よりも10.9ポイント高い。 ○二次元の表から、条件に合う数を読み取る問題の正答率は、69.7%で、全国よりも5.1ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科で表やグラフを扱う場合に、表やグラフから読み取ったことをもとにデータの特徴をまとめたり話し合ったりすることで、活用方法の幅を広げられるようにする。 ・一人一台端末を活用し、データを整理し、グラフに表すことのよさを実感させるとともに、日常的にデータを活用する機会を設ける。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は98.8%であり、ほとんどの児童が思いやりや他者を大切にすることを生活している。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合も98.8%であり、人の役に立つことの素晴らしさを学んでいる児童も多い。縦割り班活動や道徳の授業、総合的な学習の時間を通して、他者を気遣う優しい気持ちや誰かのために自ら進んで行動することの大切さについて考え、実践してきたことが結果に繋がったと考えられる。

○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は91.3%であり、全国の割合よりも10.6ポイント高い。また、「学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に1時間以上と答えた児童の割合は、86.4%であり、全国の割合よりも32.3ポイント高くなっている。家庭学習カードを活用し、毎日目標を決め、時間と内容を意識しながら取り組ませたことや家庭学習強化週間を設け、自己の家庭学習について振り返る機会を定期的に作ったことが家庭学習の習慣化に繋がったと考えられる。

○「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、92.6%であり、全国の割合よりも15.8ポイント高くなっている。本校では、総合的な学習の時間に児童が地域をよくしていく取り組みを考えて、実践し、学んだことや感じたことを下学年や地域の方に発表する活動を行っている。児童が自分の住む地域について考える機会を持つことが、地域・社会をよくしていこうという思いにつながっていると考える。

●「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は100%であったが、「国語の勉強は好きですか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は67.7%であった。今後は国語の学習がさらに好きになるように文学的な面白さについて触れる機会を増やしたり、漢字や言葉の意味などの語彙力を高められるような指導の工夫を行ったりしながら、国語の楽しさについて積極的伝えていきたい。

●「算数の勉強は大切だと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は96.3%、「算数の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は95.0%であったが、「算数の勉強は好きですか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は62.6%であった。算数の学習の必要性や大切さは分かっているものの、苦手意識を持っている児童も少なくない。今後は、「できた」「分かった」の機会を増やししながら、いろいろな見方や考え方に触れ、考える楽しさを進んで伝えていきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
表現力向上に向けた一人一台端末の活用の工夫	調べる、まとめる、伝える学習や学習内容の習熟における活用	国語の「書くこと」の領域に関して、領域の正答率は全国よりも高い。 質問紙の調査結果から、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の肯定的回答した児童の割合が98.8%で、全国より高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数の調査結果から、問題形式が短答式における正答率が、全国と同程度である。	児童の思考を可視化し、論理的思考力や表現力を育むための一人一台端末の活用の工夫	授業で、自分の考えをまとめる時間を確保し、協働学習ソフトや共有機能を活用した学び合いができるようにする。また、自分の考えや調べたことを要点を押さえながら話し合う活動を意図的に位置付ける。